



つつじヶ原の朝の散策

菅野 理夫



菅野理夫 (かんの みつお)

1923年北海道音別町に生る。航空自衛官などを経て1964年より釧路市で旅館経営。現在阿寒国公園園川湯地域運営及び自然事務局長。広域及び自然型観光(樹木、野鳥)に興味を持っている。

て、植生に極めて特異な現象をもたらしている所でも有名であります。即ち海拔僅か一五〇mという低地でありながら、二〇〇〇m級の高山でなければ見られないハイマツ、エゾイソツツジ、ガンコウランが大群落(約一〇〇ヘクタール)を形成して居ります。しかも、適者生存、冷厳ともいえる自然淘汰のおきてにより、耐えうるのみが生き残る生き様を一目にして観ることのできる地域でもあります。

川湯温泉では、従来比較的自由に樹林の中やつつじ畑に出入りしていたものを、資源保護、育成と大

自然の織りなす貴重尊厳な生態をより多くの人に知って頂き、自然愛護の意義とこの自然の美しくも尊いロマンを旅の想い出としてお持ち帰り頂こうと案内人(地元有志のボランティア)をつけ、昭和五十六年から毎年六月初旬、九月初旬まで早朝散策を行うことにしたものです。今年で八年目、今ではすっかりこの事業も定着し、参加者もすでに五万人を越えました。参加された方は齊しく厳しくも美しい自然の姿に身近に接し、只々感動と喜びを胸に刻み込み、快い土産としてお持ち帰りになります。慌し

く乗物で走り廻る旅行スケジュールの中でのこ

とだけに、稀少価値があるのかも知れません。たった一時間の体験ではありますが、自分の足で歩き、清澄な朝の空気を腹一杯に吸い、思いがけない野鳥・森の小動物との出会い、名も知らぬ草花の可憐さを目を楽しませ、小さくとも強く逞しい樹木の生態を身近かに知るとき、人間社会に置換え余りにも自然の大きさ、神秘性に心うたれ、その驚嘆感動が快い想い出となっていくまでも心に残るのではないでしょう。硫黄山が最後に爆発したのが、この附近の山では一番新しく約五〇〇年前といわれています。今吾々が見慣れた風光明媚な山河は、五〇〇年近くの歳月をかけて作られ育くまれてきた訳ですが、私共の先祖、和人が最初にこの地に足を踏み入れたのは、幕末の探検家松浦武四郎とされていますが実に僅か一五〇年前に過ぎません。彼が見た山々も現在と大差はありません。人間の歴史など、自然の中では全くちっぽけな存在でしかありません。

さて、この散策路は、片道約二・五キロ高低差二〇mの平端な小径で、浴衣、下駄ばきで老幼婦女で

川湯温泉は阿寒国立公園内摩周湖、屈斜路湖カルデラのほぼ中心部にあり、その雄大な風景と原始性は日本でも屈指の自然美に満ちているといわれる地帯です。そして、硫黄山の数百年に及ぶ火山活動によって流れ出された土砂は、一帯を強度な酸性土壌で覆い、附近に湧出する温泉は、酸性明ばん泉で道東随一の名湯とし広く世に知られています。休みなく噴出し続ける白煙に含まれる硫化水素ガスによつ

も五〇分程度で歩けます。終点硫黄山からは、バスで五分たらずホテルまでお送りしています。汗ばんでバスに乗るとき、冷たい飲物と日付入りの絵葉書が配られます。ささやかながら思いがけないプレゼントに子供のようにはしゃぐ参加者達、心なごませてお互いに感想を話し合います。これもまた旅の想い出づくりに役立っているようです。

出発点の温泉川から樹林入口まで約五〇〇m、ここが自然林の中でも一番広葉樹種が多く、特にアカエゾマツの純林は観光客の目を引きまします。時にアカゲラ、シマリスに出合うこともあります。アカエゾマツ、ミズナラ、シナ（菩提樹）等が形を変えて生活の中にあるとの説明には関心が深まります。足元にはマイヅルソウ、ツマトリソウなどが群生して散策をより楽しいものとし、樹林の中に入ると北海道特有の山奥の景観になります。ササの花、ヤマドリゼンマイ、ノリウツギなどは特に興味深く、やがて大木が無くなり道端にエゾイソツツジが散見されるようになります。細い林道を横断するとまるで別世界のように一面ツツジが連らなり、足元はササや雑草が消えスギゴケが目立ってきます。右手にハイマツの林を見ながら進むと雑木林がひらけ、前方に硫黄山が見え白樺の立枯れが絶妙なコントラストでつつじヶ原の景観を形成するさまは、まさに天下一品の自然の芸術といえるでしょう。マクワンチサップ（かぶと山）の尾根を界にした植生の分布、一望する広大なつつじヶ原、まさに自然界の妙、自然の力の偉大さに茫然と眺める人、自然林の中を歩いて来ただけにその変化の激しさが瞭然と訳です。

の保護の役目を果しているのには驚くばかり。スギゴケに混ってシラカバ、ツツジの幼木というか、むしろ稚木とでもいうべき若芽が息吹いているのには一同目を見張ります。寒暖の差、実に三十数度、寒風にさらされ、積雪につぶされもせず、この火山灰の瓦礫の中に耐えて生きている姿は、自然界、人間界を超越し実に素晴らしいことであり尊いことだといつて拍手をしながら語りかけた旅人もありました。まさしく案内人冥利につきるのはこんな出会いのときです。

やがて白樺の立枯れも姿を消しますと、今度は俺の番だというように両側はハイマツの林になります。まことに整然とした植生分布です。更に行を共にするよう道ばたはガンコウランが連らなり、ハイマツの林の中に入るとツツジの成育が極端によくなり、ハイマツとの共存の有様がよく解ります。そして、這っていないハイマツ、硫黄山岩上の地を這うようなハイマツとの比較、一年に一ミリしか成長しない成育の遅さ、自らが推定するハイマツの樹齢、この辺りまでくるとどの人も自然の愛護者、ファンに変わっています。従って、昔のように枝を折ったり、幼木を抜いて持ち帰る人は全く見当りません。出発の自然林からの歩みの中で、植生の変化を通じ樹木の生命の尊さを切実に知って貰えるからと自負しております。いつの間にか足元にガンコウランも消え失せ、硫黄山特有の臭いと噴気の響きが伝わってきて、やがて終点まで三〇〇mぐらいにさしかかると、一変自然界の厳しい戦いのすさまじさを知らされます。

今までの優雅で緑美しいハイマツが、まるで火事跡の庭木のように無惨に枯果てています。樹木の大部分が泥流による影響で、芽を育くむことができないのです。如何に硫気に強いハイマツでも、根方を酸性の

強い土砂に覆われては生きる術がありません。余りの惨状に参加者も一瞬呆然とし、自然界の過酷なサバイバルの果てを見つめます。出発して僅か五〇分、こんな短い時間にこれだけの自然の尊厳さを学習できるところが他にありませんか。「まるで極楽と地獄を見るようだ」と言った人が居ましたが、まさしくその通りだと思えます。このように変化に富んだ自然を学ぶに適したところは数少ない訳で、私はこの硫黄山の裾野に広がる一〇〇ヘクタールのつつじヶ原は、川湯温泉の誇るべき財産だと思っております。一人でも多くの人に観て頂いて、未来永劫残したい日本の宝だと信じています。さりげない散策に加わることで自からも満足し、知らず知らず自然愛護を理解してくれる。私は素晴らしい行事だと思っております。

しかし、悩みも多く、案内する時間が早朝の一時間しか予定できません。これは帰りのバスの手配、案内人の配分、お客さんがスケジュールに追われ出発が早い、反面一度に何百人も参加されると列が一列ですから説明ができず、後尾が到着するまでに時間がかかりすぎる、日中の希望者の対応ができない等々お客さんに不満があるかと思いますが、私共自身が不満な訳です。何はともあれ参加される方に100%満足して頂くためには勉強も怠ることは出来ませんし、お客様の身になって対応していかねばなりません。自然の恩恵によって生きる川湯温泉の人々は、一人でも多くの方々にこの行事を通じて自然愛護の心を広め、理解して頂くために最善の努力をすることが自然への恩返しであろうと考えます。

素晴らしい、ありがたいの一言が何よりの励み、私達はまた今年も喜こんでこの行事のために全力を尽します。